

士族授産を目的とした愛知県織工場

明治10(1877)年9月、愛知県では士族授産政策の一環として愛知県織工場を名古屋久屋町(現在市立第一幼稚園)に設け、士族の子弟に機杼の方法を修学させた。創立時には機数僅かに10機余であったが、翌11年5月、旧藩主徳川慶勝から年額2000円の寄附があり、設備の拡充がはかられた。13年7月、伝習生に加え就業生の制度が設けられ、就業の場として巾下分場(旧藩主徳川慶勝邸宅)、豎代官町分場、下堀川町分場の3分場を設け、愛知物産組・東興益組等の協力工場と提携し、「就業生の制度化」「分工場の設置」「協力会社との提携」によって卒業生の就業を確保しようとした。15年には士族の窮乏が進むなか、徳川家の寄附金が増額(7年間、年5000円)され、旧家臣99名の寄附も加え、織工、刻苧、製紙、桑園、教育を柱とする総合的な就産事業へと発展、久屋就産所と改称した。士族子弟の就産に大きな役割を果たしたが、徳川家の寄附が終了する明治22年3月に解散した。



愛知県織工場跡の案内板

区戸長

今般華族徳川慶勝ヨリ旧名
古屋藩士族へ対シ旧誼ノ情
ヲ盡サンカ為メ凡金貳千円
ヲ目途トシ本年ヨリ向十ヶ
年ヲ期シ本県施設織工場始
へ差加へ士族就産ノ一端ニ
致シ度旨依頼有之候就テハ
右金額ヲ以テ差向キ士族織
工伝習費ニ供シ即今生徒五
拾名ヲ限り募集候条願ノ者
ハ別紙規則書ニ照準第一区
久屋町一丁目本県織工場へ
可願出旨旧名古屋藩士族中
へ無洩可相達候事

明治十一年六月十三日
愛知県令安場保和

徳川家からの寄附を受けて伝修生徒募集(徳川家林政史研究所蔵)

やす ぼ やす かず 安場保和県令(1835～1899)

～勸業政策を積極的に推進～

旧熊本藩士。維新後、明治2(1869)年胆沢県(岩手)大参事となって官界入りし、同5年岩倉大使欧米差遣に随行。帰国後福島県令を経て、8年12月から13年3月まで愛知県令(第3代)として県政を担当した。この間、地租改正問題に辣腕を振うとともに、博物館、養蚕伝習所、製糸所の設置など、勸業政策に力を注いだ。また、素封家を懇諭して明治用水の工事を開始させた。愛知県令辞任後、明治13年3月元老院議員に被任、福岡県知事を経て、25年貴族院議員、29年男爵、30年9月北海道長官となった。32年5月逝去。



第3代県令 安場保和
出典：『安場保和伝』2006